

たけら

TAKUSUI
No. 694

8
August, 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



海上安全講習 (淡路市仮屋)

平成27年度 農林水産施策の推進に係る政策提案会開催される 豊漁祈願祭・組合長懇談会 開催

《今月の海上安全標語》～ お薦めの品はこれです!～

「合羽が破れてしまって……」という貴方!

安全性も兼ね備えた良いものがありますよ! JF兵庫漁連おすすめの浮力合羽が!!

かつば

「合羽買う?」お薦めしたいな 浮力付き では、今月も安全操業で!

鯛や鮒の舞い踊り・竜宮城の夢の痕(その2)

公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会 参事 上田 賀茂



昨年「拓水」7月号の本コラム(当協会の楠本専務理事が執筆)の続報です。

当協会の主要事業である水産種苗生産等業務(栽培漁業)については、県から委託を受けて推進してまいりましたが、年々、その委託費が減少し、今後の事業運営が危ぶまれる状況に至っております。そこで、県においてその対応が鋭意検討され、当面は安定的な事業運営が見込まれることとなりました。

一方、協会自主事業として、クルマエビ・ガザミ等の種苗生産事業、漁場環境保全事業、漁業操業安全や漁業遭難救済対策事業等を実施していますが、この経費については、協会が保有する資産の運用益から支出しています。

昨年3月に、県から示された関連公社(当協会も該当)等の資金運用指針により、実質的に国債、県債等での運用に限られ、債券の償還があった場合、従来のような運用ができなくなりました。このままでは、今後、利息収入が減少の一途を辿ることになり、協会の直営事業の継続実施が困難な状況に直面します。このため、県に資金運用について、指針の一部適用除外を要望しているところです。

利息収入を財源として事業を行っている法人にとっては、資金の運用が法人運営に大きく関わってきます。

さて、県では水産物のブランド化に向け、新たに県産極上アサリの生産に関する事業が取り組まれています。その一環として、協会では県の委託を受けてアサリの大型種苗量産化技術開発に着手しています。これまで取り組んできた殻長0.5mm稚貝の生産技術と、大型水槽で連続培養した珪藻を餌料に用いた中間育成技術により、殻長20mm稚貝の量産化を図っていくこととしています。



アサリ浮遊期D型幼生

平成28年3月、県では第7次栽培漁業基本計画を策定する予定です。栽培漁業の現状を踏まえ、計画の見直しも必要となっており、今後、計画の策定に向けて協議検討が進められることとなります。栽培漁業を持続的に展開できるように、皆さんの御理解をいただきますとともに、併せて協会事業の推進に御協力よろしくお願いたします。

CONTENTS

No.694 August. 2014

- 2 ようこそ
- 3 平成27年度 農林水産施策の推進に係る政策提案会開催される
- 4 戒本 裕明氏が兵庫県JF共済推進本部長に就任
平成26年度 県漁青連・女性連合同総会 開催
「平成26年度 漁船保険事務研修会」を開催
- 5 平成26年 兵庫県漁業協同組合長懇談会と
第40回 豊漁祈願祭を開催
新JF組合長のご紹介
- 6 それでも外食産業は中国産に依存するのか?
- 7 平成26年度 淡路地区漁協青壮年部視察研修会
第92回 国際協同組合デー 兵庫県記念大会
- 8 命を守る運動 海上安全講習会を開催
シートクラブのおさかな教室
- 9 「浜坂港船員生存対策講習会」実施
海難事故をなくそう
- 10 大輪田塾だより
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う



表紙の言葉

「海上安全講習会」(淡路市仮屋)

淡路市仮屋漁港で開催された海上安全講習会。

地元小学生も一緒になって受講する初めての試みとなり、ライフジャケットを着たり、人形を使ってCPR(胸骨圧迫)をしたほか、タイの稚魚の放流も盛り込まれて、普段の授業では出来ない体験に、目を輝かせて話を聞いていました。

子供たちには、お父さんや近所のおじさんたちの仕事である漁業について理解が深まり、漁業者は子供たちと触れ合い、繋がりを得ることが出来た夏の日でした。

平成27年度農林水産施策の推進に係る

政策提案会開催される

JF兵庫漁連

7月25日、神戸市の「ひょうご女性交流館」において、兵庫県農政環境部の幹部職員並びにJFグループ兵庫水産政策協議会等47名の出席のもと、県主催による「平成27年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」が開催されました。会議の冒頭、農政環境部 藤原 道生部長は「国においては第一次産業である農林水産業を成長産業と位置づけ、官邸に設置した地域活性化統合本部での検討結果を国の施策に反映していくこととしており、このような国の大きな動きにも関連することから、本日の提案会では忌憚のないご意見を賜りたい。また、念願であった瀬戸内法の改正法案が秋の臨時国会での成立を目指して、行政も一緒に一体となった取り組みにより仕上げていと考えており、改正法に基づき具体的施策の推進のための仕組みづくりにも取り組むみたい。」と主催者挨拶を述べられました。

続いてJFグループ兵庫水産政策協議会を代表して、JF兵庫漁連 山田 隆義会長は「漁業用燃油高騰対策、瀬戸内海再生に関しては、これまでの我々JFグループの取り組みに対して一定の成果が得られるに至ったことは、ひとえに井戸知事をはじめ県当局のご支援の賜物であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。しかしながら、燃油価格の高止まりによって、漁業用資材の価格は昔の2倍近くにまで高騰しており、昨年度新たに措置されたセーフティーネット構築事業の特別対策事業や省燃油活動推

進事業は非常に有難いものの、例えば漁船保険の掛金の捻出が難しくなるなど、漁業経営への厳しさが増している。」と述べました。

この後、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務が「漁業用燃油高騰対策に係る国への働きかけ」、「改正『瀬戸内海環境保全特別措置法』を踏まえた具体的施策の推進」、「多様化する消費者・実需者ニーズへの対応」の3点を提案し、これらのテーマを中心に意見交換が行われました。



—平成27年度政策提案の内容—

〈提案内容1〉

漁業用燃油高騰対策として次の事項について国の施策として実現するための政府への働きかけ

- ・ 「漁業経営セーフティーネット構築事業」を拡充強化すること
- ・ 省燃油活動推進事業を継続すること
- ・ 省エネ機器導入推進事業を継続すること
- ・ 漁業用軽油に係る税制措置として、漁業に使用する軽油に係る軽油引取税の免税措置を恒久化すること

〈提案内容2〉

改正「瀬戸内海環境保全特別措置法」を踏まえた具体的施策の推進

〈提案内容3〉

多様化する消費者・実需者ニーズへの対応

- ・ 食品の原料の原産地表示義務の対象拡大
- ・ 「プライドフィッシュプロジェクト」への協力支援
- ・ 「たじまの魚ブランド化支援事業」の継続支援



戎本 裕明氏が兵庫県JF共済推進本部長に就任

兵庫県JF共済推進本部では6月27日（金）開催の運営委員会において、吉岡修一氏（JF但馬）の退任に伴い新本部長に、戎本 裕明氏（JF明石浦代表理事組合長）が就任されました。

平成26年度 県漁青連・女性連合同総会 開催



兵庫県漁協青壮年部連合会、兵庫県漁協女性部連合会は、6月28日（土）神戸市立水産会館で合同総会を開催し、それぞれ平成25年度事業・収支決算報告、平成26年度事業計画・収支予算案、会費賦課額および徴収方法など議案が全て原案通り承認されました。また、県漁青連では任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に山崎 大輔氏（淡路地区漁協青壮年部連合会長）が就任しました。当日は両団体の会員や県・系統団体からの来賓者ら約87名が出席し、全国漁青連の歌「いざ大海原へ」と漁協女性部の歌を全員で斉唱したあと開会しました。



西本氏による話題提供



山口専務の講演

開会にあたり、先ず県漁青連 大角 生馬会長、県女性連 森 武美会長がそれぞれ挨拶し、続いて来賓の県水産課 近藤 敬三課長と、系統諸団体を代表してJF兵庫信漁連 山田峰人会長より挨拶がありました。午後からの交流大会では、大会宣言が読み上げられ、大会決議が採択されました。その後、まず、テーマとして、「私たちの協同組合「漁協」と題して兵庫県漁連の山口専務理事による記念講演が行われました。この講演テーマについては県漁青連・女性連の役員から「協同組合」について改めて学びたいとの要望があり実現したもので、領きながらメモをとる方も多く見られました。次に「魚食普及の取組み」と題して兵庫県漁連広報部 西本 広幸氏、楊理恵氏により話題提供と県漁連商品の試食が行われ、PRとともに、普段はなかなか会う機会が少ない役員同士の交流も深めることができました。

「平成26年度 漁船保険 事務研修会」を開催

兵庫県内海漁船保険組合

兵庫県内海漁船保険組合（山田 隆義組合長）では、平成26年度漁船保険事務研修会を7月8日（火）、9日（水）神戸市内のホテルで開催し、兵庫県の瀬戸内管内36漁協の組合長、担当役員をはじめ、県市町担当係官、系統団体代表者等150余名が参加しました。山田組合長による主催者挨拶、兵庫県水産課 近藤 敬三課長・漁船保険中央会 三宅 哲夫副会長の来賓挨拶に続いて賞状授与伝達式が行われ、無事故漁船所有者の部で南あわじ漁協所属「住吉丸」への水産庁長官表彰をはじめ、漁船保険中央会長の表彰が行われました。

この後の研修会では、初めに、事務局から平成25年度事業報告と26年度事業計画につき説明があり、26年度の事業推進方策について、各漁協に対する協力体制の確認が行われました。

次に、研修Ⅰとして、戸田総合法律事務所、山本剛也弁護士、田之脇崇洋弁護士から「人身事故における休業損害の認定方法について」講演があり、参加者は終始熱心に聴講されていました。第1日目の終了にあたっては、主催者の内海漁保 小溝 政二副組合長は、参加者に対する労いの言葉と、漁船保険事業の今後の支援につき理解を求める挨拶をされました。

2日目には研修Ⅱをおこない、「保険対象外の部品等について」として漁船保険中央会船舶審査部 渡辺 優上席調査役から説明がありました。この内容は、漁船保険事務担当役員の方々に今後は漁船保険金請求について大いに役立てて頂ける内容であったと確信しています。



◀主催者挨拶をする 山田組合長

平成26年 兵庫県漁業協同組合長懇談会と 第40回豊漁祈願祭を開催



「海の日」の7月21日（月）、第40回豊漁祈願祭が伊弉諾神宮（淡路市）で執り行われ、県下JF組合長、系統団体、行政から約60名が参加しました。神事は厳かに執り行われ、参加者一同は豊漁と海上安全を祈願しました。

午後には、平成26年兵庫県漁業協同組合長懇談会が淡路夢舞台国際会議場で開催され、60余名が出席しました。

開会にあたり、JF兵庫漁連 山田 隆義



伊弉諾神宮での神事

JF兵庫漁連

会長は「喫緊の課題として、瀬戸内法の改正と恒久的な燃油対策があり、更には来年3月に軽油引取税の免税措置の期限切れを迎えることから、JFグループとして政治力の結集が一層重要となる。年々、世代交代が進み新しい組合長が誕生して行くなか、JFグループとして漁業者に何が出来るか、漁連として指導的立場で関係先に協力を仰ぎながら、兵庫県の漁業を作り上げていきたい。」と挨拶されました。



熱のこもった講演をされた佐藤力生氏

続いて「今後の資源管理の在り方について」と題し、元水産庁技官 佐藤力生氏から、特にIQ・ITQの問題について、過去に資源管理を担当した行政官としての視点と現在の漁業者の視点の両面から講演があり、参加された方々は熱心に耳を傾けていました。佐藤氏は、「新自由主義に基づく規制改革という『重箱の底』について十分な議論がされぬまま、底が抜けている状態で、資源管理という『重箱の隅』を突くような議論が展開されていることに違和感を持つ。規制改革会議は農協の改革に手を入れようとしており、当然、漁業にも影響が出ることは必至で、協同組合としてこれを阻止する運動を展開していくことが大切である」と警鐘を鳴らしました。

新JF組合長のご紹介

平成26年4月～7月までの間に、新たにJF組合長に就任された方の御名前をご紹介します。

● JF但馬 代表理事組合長 眞野 豊氏（6月18日就任）

※（一財）兵庫県水産振興基金確認分

それでも外食産業は中国産に依存するのか？

～今こそ国産水産物の魅力をアピールし食料安保議論を～

7月23日(水)夜の報道ステーションというTV番組の中で、中国「上海福喜食品」の使用期限切れ鶏肉混入事件を取り上げていましたが、その放映された映像は企業倫理の欠片もない非常識な行為であり許し難いものでした。一瞬の映像とテロップですから見落としした方も多いかと思いますが、大凡の内容はこうです。輸入仲介の商社と大手ファストフードの関係者から、食品輸入に先立ち工場設備や原料管理など現場の検証も入念に行いチェック体制は万全だった、とする説明映像に続き、場面はバイヤーらが加工場を退出した後の現場を映し出していた。何処からか、ブルーのビニール袋に入った期限切れの鶏肉が大量に搬入され、加工ラインに投入されている。そして画面から人の話し声とテロップ「これが下見の時に知られたら取引停止になってしまうよ。大変なことになるよ」が流された。おもわず「嘘やろ、またヤラセじゃないの？」と声を荒げたほど衝撃的な場面でした。さらにシヨックはキャスターらがこの「画面」や人の倫理を話題にせず、コンビニやファストフードの責任者らのチェックが不十分だったのでは？など、責任所在の話に終始し「それでも中国依存は続けざるを得ないのです」というバイヤーの声を最後に画面は別の事件へ。外食産業や量販店は熾烈な低価格競争を繰り返す余り食の本分を忘れてしまったのでしょうか？2008年中国製餃子中毒事件など「食の安全」を揺るがす事件が相次ぎ、食品業界は痛い目にあったはずなのに、また、同じ事が繰り返されています。そして残念なのは私達消費者が暗にこれを容認していることです。あまりに事件事故の多い現代社会、喉元過ぎれば熱さ忘れる。で私達も豊かな食文化に慣らされ、溺れ、危機

意識が薄れてきているのかもしれない。ところで、外食産業界に新風をもたらす明るい話題もありました。7月28日(月)の日刊水産経済新聞の記事ですが、これまでステーキ、ハンバーグなど肉メニューを数多く提供してきたファミレス大手ロイヤルホストが、今夏から国産水産物に本格挑戦を始めたというものです。外食産業といえば、大量ロット・定品質が揃う輸入冷凍魚が定番とされ、また、熾烈な価格競争、コスト第一主義が業界の代名詞ともいわれています。同社は「社会貢献と経営の両立を目指す」として、1年かけて国内水産物を使った新メニューづくり「Good JAPAN」プロジェクトを立ち上げ、このほど「瀬戸内・土佐巡りフェア」へ大きく舵をきられたという事です。従来メニューの約3倍からの手間と不安定な水揚げという浜事情と闘いながら、価格ではなく、美味・新鮮という国産水産物の魅力を前面に新メニューで業界に新風を吹き込もうというものです。是非、看板メニューに定着するよう願っています。近代食文化を牽引する外食産業が、安値競争から脱皮し、日本固有の食材で旬と鮮度を最優先に消費者を誘導していけば、食に対する尊厳意識は高まり食料自給率は自然に改善向上してゆくでしょう。また、この機会に私達生産者団体も月のどこか一日を「魚を食べる日」に定め、総ての地域住民に水産物に親しむ機会づくりを始めたいと思う。既に香美町が「毎月20日は魚(と)の日」と定めた活動していますが、是非、各JF単位で地域に合ったお魚デーを設定しPRに努めつつ、自らもその日は必ず水産物を食すことを始めよう。子供達にもその意味を伝えよう。

歴史を紐解けば国民の蛋白食料を支えてきたのは水産物です。畜産物は、土地、水、餌料などから自給量に限界があり、四囲を海に囲まれた海洋国で水産資源は命の源ですが、一定水準の経済力を得、飽食の時代に馴れた国民には食料安保論などへ関心もなく話題にもならないのは残念です。

先進諸国では早くから国勢の維持安定を視野に「食料安保」を最重要施策に掲げ、自給率の向上に努めているようですが、我が国はTPP、FTA交渉で市場開放を進める一方、食料安保の根幹を担う第一次産業を国際競争力に耐える産業構造へ変革を求める動きが活発です。産業構造の基盤強化は重要な事ですが、我が国の農林水産業の歴史や制度は、自然風土と調和しながら固有の倫理道徳観のもとで育かれ、先人の血と汗と英知で培われた独自の仕組みであり、国民食料の安定供給という役割を通じて日本経済の発展に貢献してきました。また、漁業制度は701年飛鳥時代に制定された大宝律令に始まったといわれていますが、1300年余を経た今日でも漁場管理、資源保護など基本思想は脈々と受け継がれてきています。今、目の前の風潮だけで規制改革、市場開放を高らかに叫ぶ有識者(？)、あるいは現社会を我が物顔で闊歩する先端産業関係者らは、高々100年にも満たない歴史の中で、即金銭勘定の企業論理で第一次産業を抜本改革しようというのは、食料安保の重要性を忘れ、1億3千万国民の命の保障を諸外国に委ねる無責任な暴論といわざるを得ません。期限切れ鶏肉混入事件を契機に食料供給産業の一翼を担う漁業者としての自覚と責任の下に、しっかりと地歩を固め、時機を逸せず「食料安保」政策が確立するよう世論喚起に情報発信が必要ではないでしょうか？(U/T)

平成26年度 淡路地区 漁協青壮年部視察研修会

淡路地区漁協青壮年部連合会

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長）は、アサリの天然採苗および垂下式養殖、豊漁と安全祈願を視察の目的として7月19日（土）・20日（日）の2日間にわたり、平成26年度の視察研修会を行いました。19日は三重県鳥羽市の鳥羽磯部漁協浦村支所で、ケアシエル（カキ殻の粉末を混ぜた固形物）を使用した袋網によるアサリの天然採苗と垂下式養殖を視察し、翌20日に愛知県の熱田神宮を参拝しました。

天然採苗の方法は、袋網に砂利とケアシエルを詰めて、砂浜に設置し、半年〜1年後には約2cmのアサリの稚貝を収穫するというものです。稚貝を収穫し終えた袋網は、再度設置して使用する事ができ、流失しない



アサリの天然採苗および垂下式養殖の説明

限り5〜6年ほどは繰り返し使用できます。また垂下式養殖は、コンテナの中に砂利とケアシエルを敷き詰めて、その中にアサリ稚貝を入れて行っていました。養殖されているアサリは4cmを越えたものが多く、大きいものは約5cmの大きさでした。兵庫県下の漁協も視察に訪れており、帰ってから自身の浜でも同じように天然採苗ができたとの話も聞くことができました。参加者からは「淡路島は波浪が強いので、袋網が流される可能性もあるが、同じように挑戦してみたい」との意見がありました。

熱田神宮では、豊漁と海上安全祈願を行いました。



熱田神宮を参拝しました

第92回 国際協同組合デー 兵庫県記念大会

～協同の力で未来を拓く～

国際協同組合デーは、世界の協同組合に携わる人々が心を一つにして協同組合運動の前進を誓う日として、毎年7月の第1土曜日と定められています。この日に先駆けて、兵庫県の農協、漁協、森林組合、生協で運営する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は、7月6日（金）神戸市内において、関係者約360人が参加のもと、第92回国際協同組合デー兵庫県記念大会を開催しました。

兵庫県生活協同組合連合会 本田 英一会長の挨拶後の兵庫JCC宣言ではJFF兵庫県漁協女性部連合会 森 武美会長が「本年度は阪神・淡路大震災後20年にあたり、東日本大震災も3年目を迎える。復興に向けて今後も協同組合の垣根を越えた支援をしていく。兵庫JCC設立宣言の原点に立ち返り暮らし良い兵庫と協同組合の発展を目指す」とした宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

続いて「阪神・淡路大震災20年を迎えます。あの日を放送し続けて」と題し、ラジオパーソナリティ 谷 五郎氏の記念講演が行われました。谷氏は長い間JA職員として培ってきた経験から、協同組合の役割と、阪神・淡路大震災時のラジオ放送とおおして感じた「人と人との繋がり」について、ラジオ番組さながらのユーモアを交えた話をされ、参加者は時間を忘れ熱心に聞き入っていました。



谷氏の講演は、笑い声が絶えませんでした



森会長のJCC宣言は満場一致の拍手をもって採択

命を守る運動 ～小学生も一緒に～ 海上安全講習会を開催



また、この日は、タイの稚魚の放流や、栽培漁業について説明があるなど、漁業について学ぶ機会も設けられ、子供たちは広く漁業について知る場となったようでした。

次に淡路広域消防事務組合岩屋分署の協力を得て、人形を使った胸骨圧迫（CPR）とAEDの使用など救命救急の大切さを学び、部員と子供たちは実習を行いました。部員の中でも実際に訓練をするのは初めの方が多く、真剣に訓練に取り組み姿が見受けられました。

JF仮屋青壮年部（相田 欽司部長）は地元の淡路市立学習小学校児童らと一緒に、ライフジャケットの体験や救急法について学ぶ「命を守る運動 海上安全講習会」（サバイバル訓練）を、系統5団体とともに開催しました。

この講習会は、子供たちに地元の漁業を知ってもらおうとともに、海上安全についての知識を深めてもらうというもので、5年生児童（約70名）が参加しました。ライフジャケットの講習では、JF兵庫漁連 宗和 貴光統括代理が、種類や使用時の注意点を話し、相田部長をはじめ部員らが次々にライフジャケットを着用して海に飛び込みました。子供たちは膨張時の音に驚きながらも説明に耳を傾けていました。



真剣な眼差しで説明を聞く部員



作動体験はびっくりしたようです



教員の皆さんはスミ抜きに挑戦しました

この日の「お魚教室」は、子供たちに人気があり、旬を迎えたタコを使い、たこの幼稚園は、その後、協同組合の父、と呼ばれる賀川豊彦氏が初代理事長を務めた財団法人イエス団（現：学校法人イエス団）が運営しており、協同組合、での関連がある同園での開催となりました。

西宮市で最初に私立として創立されたこの幼稚園は、その後、協同組合の父、と呼ばれる賀川豊彦氏が初代理事長を務めた財団法人イエス団（現：学校法人イエス団）が運営しており、協同組合、での関連がある同園での開催となりました。

JF兵庫漁連広報部

シートクラブのおさかな教室 ～甲子園二葉幼稚園にて開催～



茹であがったタコに喜ぶ園児ら

今後もイエス団の運営する各園で同様の教室を開催する予定です。

園児・保護者、関係者ら約130名が集まり行われました。講師はシートクラブの森さん、川端さんが務め、園児らに分かりやすくタコの生態などを伝えました。また、タコが立って歩く姿を初めて見た園児らは大喜びで、じっと観察する姿も見受けられました。最後に、教員らによる「茹でダコづくり」があり、全員で試食して、園児も教員も楽しんだ教室となりました。



「浜坂港船員生存対策講習会」実施!

～浜坂漁港で漁業者らが訓練～

(一財)兵庫県水産振興基金



「生き抜く」ための注意点について理解を深めた

同講習会はJF浜坂川越一男組合長の「人命にかかわる訓練であり、十分気をつけて受講してもらいたい」との挨拶で始まり、同協会担当者から座学・実技について説明がありました。座学では日本近海で救命いかだを使って助かった事例が報告され、①生き抜く強い意志、②体温低下防止のための厚着とライフジャケットの着用、③通信手段の確保の3点が強調されました。会場を移して行われた実技訓練では、自動膨張式の救命いかだを実際に海中に投下し乗り込む訓練や、救命いかだ内の機材説明、実際に発煙筒や落下傘式発煙筒を使用する訓練、さらにはJF兵庫漁連によるライフジャケットの実習体験などが行われ、参加者は万が一の時に備えて真剣に耳を傾けていました。

操業中などに海中転落した際の注意点や救助方法などを紹介する『浜坂港船員生存対策講習会(サバイバル訓練)』が7月28日(月)、新温泉町の浜坂漁港で行われ、地元漁業者やインドネシアからの漁業実習生ら約50人が参加しました。
この取り組みは、作業用救命胴衣等の正しい装着・整備方法を熟知するとともに、膨張式救命いかだの正しい操作方法や海中転落者の適切な救助方法、乗組員が非常時において生き抜く(サバイバル)のための知識・技能を身につけることを目的に船員災害防止協会の主催で行われているものです。



救命いかだの引き起こしに挑戦

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

夏本番を迎え、暑くなってきましたがライフジャケットは着用しましょう。

膨張式のライフジャケットは暑さを軽減できます。



膨張式ライフジャケット

モデル:

富島漁業協同組合
田中孝代表理事組合長

～安全をサポート～
浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮きます!

モデル: JF兵庫漁連但馬支所
西上幸作さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

大輪田塾だより

兵庫県内で現地研修

7月の大輪田塾は毎年恒例の宿泊研修を29日(火)・30日(水)に行いました。

29日は、はじめに三木市の古野電気株三木工場を訪れ、漁業用機器の製造現場を見学しました。同工場は船用機器生産工場としては世界最大規模とのことで同社の船用製品の約70%を担う基幹工場です。研修は、魚群探知機・ソナーの原理や自動船舶識別装置(AIS)について説明を受けたほか、工場内を見学することが出来ました。次に兵庫県立森林林業技術センター(六栗市)を訪れ、林業の現状や、森林の機能について活発な意見交換があったほか、木材の有効利用について研究する施設を見学し、塾生の林業についての理解が深まりました。

翌日は、まず兵庫県立農林水産技術総合センター(加西市)を訪れました。講義では「コウノトリ農法」などの環境創造型水稲栽培と、酒米「山田錦」の現状と取り組みについて学んだほか、敷地内の果樹園に出て、地球温暖化に対応した果樹栽培について学びました。最



古野電気株三木工場での研修



木材の試験研究を見学(県立森林林業技術センター)

後に、JF兵庫漁連水産加工センター(姫路市)に行き、JF兵庫漁連流通加工事業本部 柴田昌彦 本部長から流通加工事業の現状と今後について話を聞いたほか、加工場の製造工程見学、商品の試食なども交えて意見交換を行いました。今回は、「兵庫の農林水産業」をテーマに研修を行いました。どの研修先でも、塾生は熱心に質問をしたり、写真を撮ったりする姿が見られ、農・林・水の各産業の繋がりを実感することが出来ました。



仲山工場長による説明を聞く塾生(水産加工センター)



果樹園を見学(県立農林水産技術総合センター)

この後の大輪田塾
日時：平成26年8月26日(火)
14時30分から
水産会館にて
平成26年度
大輪田塾修了論文発表会

大輪田塾第10期生募集 締め切り迫る!!

平成17年に開講した「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第10期生を募集しています。皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

- ① 原則として、漁業歴 10年以上 かつ 45歳未満
- ② 原則として、JF関係役員歴 10年以上 かつ 45歳未満
のいずれかに該当し、所属する組織代表者の推薦を受けた者

募集期間は8月末迄です。詳しい内容は下記事務局まで!

問合せ先(事務局) 〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3
(一財)兵庫県水産振興基金 大輪田塾事務局 TEL 078-919-1331

営農現場で迅速指導 タブレット端末導入

JAあわじ島

JAあわじ島は営農指導の現場にタブレット型端末機24台を導入しました。営農指導員が圃場へ出向く際に携帯し、現場での迅速な営農指導を目指します。

タブレットを導入することで、管内の生産状況を営農指導員同士がリアルタイムに把握し、迅速な対応やアドバイスができます。この他にも、病虫害の注意情報や新技術の情報、農薬の使用基準など、的確な指導が可能です。支店や本所の営農指導担当者に1人1台ずつをそろえました。

組合員からも「病害の様子や営農情報について、写真も表示されるので見やすく、内容もわかりやすい」と好評です。

同JAの濱口晴一営農部長は「今後は、営農指導員が積極的に現場に出向き、JAの栽培指針を基に現地指導の強化を図っていきたい」と話しています。



タブレットを片手に病害について説明する営農指導員

そば打ち会を 楽しみました

たじま医療生活協同組合では、5月24日（土）、そばで有名な豊岡市出石町でそば打ち会を行い、15人が参加しました。現地までの送迎をかって出てくださいました組合員さんもおられ、道中も会話が弾みました。

「そばを打つのは初めて」という方がほとんどで、お店の方にベテランの組合員さんも加わり、丁寧に指導していただきました。「そのそば、いびつやで」「粉を打つのが少なすぎて、くっついてもうたわ」など、楽しいおしゃべりと笑い声が絶えず、みんな熱心に自分のそばを仕上げていきました。

打ったそばは6皿分ありましたがお店のご好意で、追加で1皿サービスしていただきました。「打ち立て・ゆで立ては最高!」「やっぱり手打ちはおいしいね」との声が上がるなか、あっという間にお腹に入っていました。

食べ終わったあとは「出石城下町散策」班と「温泉」班に分かれて、それぞれに出石を楽しみました。「またこんなことしたいね」「次はうどんもいね」など、充実した一日を過ごしました。



そば打ちを楽しみました



出来立てをすすりこむ!

胡麻の実



旬に想う

写真と文
遊方子

宝の小箱

◆何人かが集まり金銭を出し合い、纏めた金を一人が独占するのを「頼母子講」とか「無尽(むじん)」と呼び、鎌倉時代から行われていた方法である。これを展開させ、賭博性の一段と強い「富籤(とみくじ)」が生まれた。そして今「当選金付き証券」として落ち着いたのが《宝くじ》であり、夏のジャンボでは億万長者が誕生し、そして特定自治体の財政難解消にも一役買っている。公認された賭博として人気が高い。宝くじで一攫千金を狙うのは、夢があつて良いと考える人と、当たった試しがなく馬鹿げているという人に二分される。善し悪しはともかく、買わねば当たるチャンスが皆無なのは、確かな事である。

◆宝の地図を手掛かりに孤島を探検したり、古代の遺跡から宝物を掘り出す。そうした冒険物語は、昔から映画の好題材になった。痛快で思いも寄らぬドンデン返しの結果に唾然としたり、一杯食わされた感じもするが、冒険譚は大抵そんなものだ。CGを使ってサスペンスを盛り上げて観客動員を図っている。面白い空想の世界、宝物とはそうしたワクワク感で満たされる代物であるようだ。♪黄金虫は金持だ、金蔵立てて蔵立てた、鉛屋で水鉛買って来た。♪

◆「国宝」は「重要文化財」のうち、世界的見地からも価値の高いもので、たぐいえない国民の宝たるに相応しいものという指定基準に該当したものである。全国に千五十件近く、物が指定されており、その六割が関西に在ると言われている。戦争被害のなかった京都／奈良に集中しているため、

国宝は日本歴史の刻印として大切なものだ。価値ある国民の宝は、観るだけで目の保養になる。何時でも見ることが可能なものや、時々しか公開されないもの、また奥の院に収まって陽の目を見ないもの等に分かれる。石の彫刻や建造物も、堅固にはみえるが、常時自然の中に晒した状態では、少しずつ変化してしまうという。機会があれば観ておきたい。名聞觀賞は、知識としての良い肥やしになる。

◆少年の頃、『宝の小箱』に入っていたもの。八木の海岸で拾ったアカシジウムの化石、宍粟の溪谷で見つけた天然水晶と艶々した緑色の小石、宝貝もあつた。今も何処かに仕舞っているが、それほど価値があるとは思わない。神戸で少年が拾って大切にしていた宝物が、歴史的に大きな価値のある青銅鏡の破片だったと判ったそうだ。あなたにとって宝物は何ですか。一品だけを選ぶなら、私の宝は元気に成人した子供たちだ。それぞれが、社会人として納税する立場を守っており、孫も今年で一年生になった。これに勝る宝はあるまいと思う。

夢と希望と感動と。熱き挑戦者たちの奇跡のステージ!
奇跡のホワイトライオン世界猛獣ショー

～4年ぶりの神戸公演!～ 9/13(土)～11/30(日)

神戸市北区 イオンモール神戸北 特設会場

平日招待券 10組20名様プレゼント

(10月11日～11月30日までの間の平日招待券です)

郵便番号、住所、電話番号と「木下大サーカス御招待券希望」と記入の上、下記の連絡先までお送り下さい。

連絡先 (一財)兵庫県水産振興基金
メールアドレス: h.sui.kikin2@triton.ocn.ne.jp
TEL: 078-919-1331
9/12(金) 〆切 当選は発送をもってかえさせていただきます。

